

生活文化デザイン学の専門性を活かすためのキャリア教育 課題Ⅰ

背景・目的

就職活動は、大学教育の集大成として、社会に出て行く学生自身の体験的自己学習の機会でもある。本学科では、就職活動をそのような体験的自己学習の機会とすることを支援するために、2012年に生活文化デザイン学会のなかに、キャリア研究会を教員と学生有志により設置し、以来継続して、学生が企画・運営する取り組みを進めている。本課題では、キャリア研究会を、体験学習、集団学習、ピアサポート学習、研究会の企画・運営の4つの点から、学生自身が主体的に就職活動に取り組み、学ぶ場とすることを目的とする。あわせて今年度はOGと在学生の連携の構築を模索した。

実施内容

2015年度は下記の2つを中心に実施した。

1. 就職活動に必要なスキルや情報を身につけるためのグループワークの実施

参加学生が主体となって研究会の内容を企画し、顧問のキャリアカウンセラーの指導のもとに、自己分析、グループディスカッション、模擬面接などをグループワーク形式で、月2回のペースで計16回(2015年4月22日、5月20日、6月3、17日、7月8日、10月8、21日、11月4、18日、12月16日、2016年1月6、20日、2月17、24日)定例研究会を開催した。

内容の一例として、一人の参加者のプレゼンから感じたことを全員でディスカッションするなかで、自己を客観的に分析するスキルを身に付けるというワークを実施した。これはアサーティブネスなトレーニングともなり、友人関係に悩む学生には貴重な体験となった。



2. 内定を得た先輩、社会で活躍しているOGとの交流会の実施

7月22日、11月15日、12月9日と3回にわたり、社会で活躍しているOGや内定を得た4年生、各回3人、計延べ9人に、仕事の内容、就職活動の体験などを語ってもらい、その後フリートークを行い、交流会を実施した。



結果及び考察

今年度の成果は、第1に、一つのテーマを継続的に追求することで、就職活動を学びの場とする目的が定着したこと、第2に、社会で活躍しているOGとのネットワークの萌芽が形成されたことである。また、大学院進学予定者にも話を聞くことができ、キャリア選択を拡大する機会ともなった。

課題としては、平均15名程度の参加者をより増大させることと学生リーダーの継承があげられる。活動する学生が毎年変わるので、これらは前年と同様、大きな課題である。